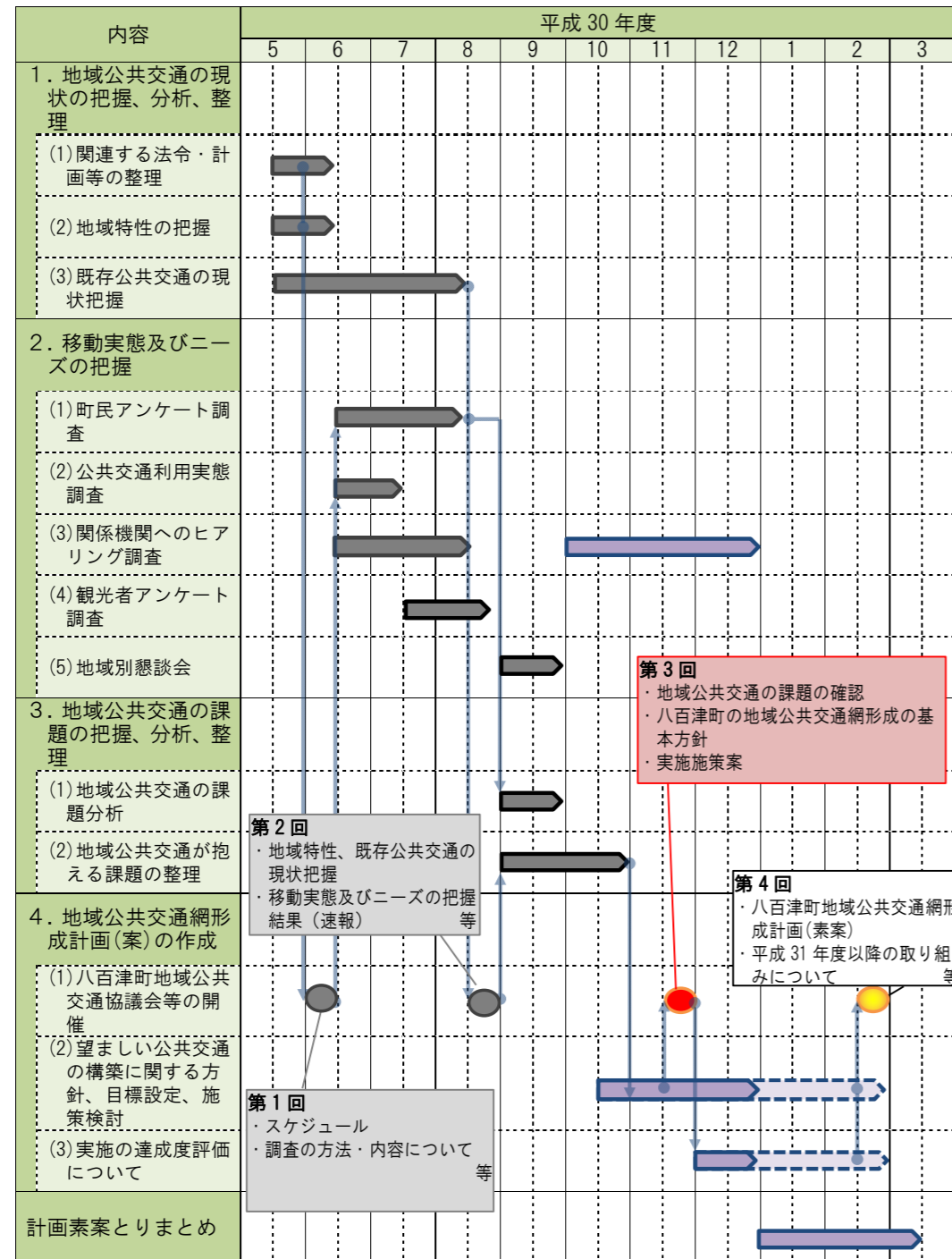


## 第3回 八百津町地域公共交通協議会 資料

### 1 本日の会議内容とスケジュールの確認

#### ■第3回会議の目的

- ・八百津町の公共交通の課題の確認
- ・課題を踏まえた今後の公共交通網形成の基本方針の検討
- ・課題を解決するために実施する施策案の検討



図：スケジュール

### 2 八百津町の公共交通に関わる現状と課題

#### 2-1 町の現状からの課題

現状	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・山間部における低密度な人口分布。</li> <li>・今後30年で町人口は半減、高齢者は人口の半数を超える予想されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口の減少による利用者の減少。</li> <li>・運行欠損額の増加。</li> <li>・高齢化の進展に伴う交通弱者の増加。</li> <li>・日常的な移動を支える交通手段の確保。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・可児市、美濃加茂市とのつながりが強い。</li> <li>・鉄道駅が町内にない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通相互の乗り継ぎ利便性の向上。</li> <li>・美濃太田駅、明智駅、可児駅・新可児駅などの町外の鉄道駅との接続確保。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバスが休日に運行していない。</li> <li>・YAOバス、東鉄バスは休日に本数が減少。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休日の移動手段の確保。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・八百津町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定のためのアンケート調査において、住む場所で重視する点は63.2%が交通の便の良さと回答。町外へ移りたい理由として約68%が通勤・通学・買い物・余暇活動に不便と回答。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光やまちづくりや福祉、教育等の総合的な観点からの取り組み・支援の充実。</li> <li>・活気ある暮らし易い地域づくりのための公共交通の維持確保。</li> </ul>

#### 2-2 町民アンケート調査からの課題

調査結果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動手段は自家用車に依存しており、バスを利用するのは自家用車を運転できなくなってから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通への転換、利用促進。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通について詳しい内容を知らない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運行情報など公共交通のPR。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最寄りのバス停から300m以上離れている人が約4割と多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス停の位置、バスルートの検討、バス停までの移動手段の確保。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポートフォリオ分析の結果から満足度が低く重要度の高い重点改善項目は「便数」「運行時刻」「乗り継ぎのしやすさ」「始発終発の時間」「ルート」。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のニーズに合った運行の検討。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度について実際の利用者より評価が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に利用してもらい、イメージと違うことを体感してもらう。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町の交通施策として必要なものは「他市町(鉄道駅)につながるバスの維持・確保」「町内を結ぶバスの維持・確保」。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスの維持・確保は重要な交通施策として位置付け、施策を実施。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通の維持・確保に向け必要な取り組みは「車両の小型化などの経費削減」「地域で支え合う仕組みの導入」「デマンド運行の導入」。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経費の削減や地域にあった運行形態への転換について地域との協働による検討。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・デマンド運行の導入については「運行条件によって利用したい」が多いが、地区によって利用意向が異なる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区の意向を踏まえた導入の検討。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運転免許の返納予定は約2割で、返納後の交通手段は「バス・鉄道」の公共交通。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・免許返納後の移動手段の確保が重要となり、また返納の促進施策も必要。</li> </ul>

### 2-3 利用実態調査からの課題

調査結果	課題
・ YAOバスの利用者は比較的多いがそのほとんどが八百津高校生で、学生が利用しない便の利用者は少ない。	・ 学生に対応するとともに、学生以外の利用の促進。
・ コミュニティバス・東鉄バスは高齢者の利用が多いが全体的に利用者数は少ない。 ・ 休日の利用者が少ない。(YAOバス・東鉄バス)	・ 利用促進。
・ 八百津高校以外では、八百津FCや八百津本町での乗降が多い。	・ 八百津FCはバス拠点として充実していく。
・ バスを利用する理由は「自宅からバス停が近い」「他に手段がない」が多い。	・ 「他に手段がない」人の移動手段として公共交通の確保・維持。 ・ 積極的に利用されるようニーズに合った運行。
・ 普段利用するバスとして、可児市のさつきバスや美濃加茂市のあい愛バスも利用されている。	・ 周辺市町が運行しているバスとの連携。
・ 自主運行バス飯地線の利用者はほとんどみられない。	・ 自主運行バス飯地線の存続。

### 2-4 八百津高校生アンケート調査・ヒアリングからの課題

調査結果	課題
・ 通学で利用するバスはYAOバスが多く、コミュニティバスは少ない。	・ 通学での利用促進。
・ 鉄道との乗り継ぎは明智駅が多い。	・ 鉄道との乗り継ぎ利便性の維持・向上。
・ 通学以外で利用するバスはYAOバスや東鉄バスでコミュニティバスは少ない。 ・ 通学以外ではバスを利用しない人も多い。	・ 通学以外でのバスの利用の促進。
・ バスの満足度は利用実態調査より「便数」「ダイヤ」「始発・終発の時間」「ルート」「情報提供」が高く、「バス停までの距離」「料金」「安全性」「定時性」「接客」で低い。	・ 利用者のニーズを踏まえた改善。
・ 東鉄の減便により鉄道の乗り換えが発生し定期代が高くなる。	・ 料金施策の検討。
・ 春先には生徒が乗り切れない。(5月以降は解消)	・ 利用者数に応じた対応。
・ 明智駅に駐輪場がない。	・ 駐輪場対策。(他市町との連携)

### 2-5 観光来訪者アンケート調査からの課題

調査結果	課題
・ 来訪は土日が約6割と多い。 ・ 来訪手段・町内の移動手段は自家用車が約9割。 ・ 立寄り地点は「杉原千畝記念館」「丸山ダム」「五宝滝」「旧八百津発電所資料館」などが多い。 ・ 可児市や美濃加茂市などの施設と合わせて来訪している人も多い。	・ 観光来訪者も利用できる公共交通の確保。 ・ 広域も含めた周遊ルートの設定。
・ 公共交通を利用しやすくするための施策は「運行情報提供」が最も多く、ついで「観光地への接続」となっている。	・ 観光来訪者を考慮した運行や情報提供。

### 2-6 関係機関ヒアリング調査からの課題

ヒアリング結果	課題
・ 今後いかにバスに乗ってもらえるかが課題で自家用車に乗れなくなったらバスにも乗れない。(東濃鉄道)	・ バスの利用促進。 ・ 健康なうちからバスに乗る習慣づくり。
・ コミュニティバスを土日運行した場合運転手の確保が難しい。(東濃鉄道)	・ 運転手の確保。
・ 高速バスの八百津からの運行は需要を考えると難しい。まずは可児車庫に車を止めて乗り換えることを薦めたい。(東濃鉄道)	・ 高速バスの利用促進。
・ YAOバスの起点を明智駅から可児駅、御嵩駅に変更することは難しい。(東濃鉄道)	・ YAOバスのルート検討。
・ タクシー利用の促進や維持については自治体と協力が必要。(新太田タクシー)	・ タクシーの維持・利用促進・活用等について交通事業者と行政の協力。
・ デマンド交通への対応として、デマンド配車のシステムを開発しておりシステム利用料を含めた形で運行への対応は可能。(新太田タクシー)	・ コミュニティバスのデマンド化への検討。
・ 最寄りのバス停がない、本数が少ない、バスの時間が限られる。また高齢化による免許返納が進み通院の足が少なくなりつつある。(医療機関) ・ 車に乗れなくなった時、近所の人に頼めなくなった時など、将来に不安を感じている人がいる。(社会福祉協議会)	・ 交通弱者の移動手段の確保。
・ 社会福祉協議会で展開できることは、公共交通で補えない隙間を住民の協力を得て考えていく、サロンのついでに買物に連れて行くなど。(社会福祉協議会) ・ 自宅からバス停までのつなぎの部分については、体制づくりや配車受付などの取り組みができる。(社会福祉協議会) ・ NPOとしては、バスでできないこと、個別ニーズの対応を行う。(NPOやおつ) ・ 有償ボランティア輸送と公共交通の連携は可能。住民やNPOとの連携・調整や介護保険事業との連携も可能ではないか。(健康福祉課)	・ 福祉関係組織との連携。
・ スクールバスについては昼間の活用は可能であるが常に利用できるものではない。(教育課)	・ スクールバスの活用施策の検討。
・ 学校教育の場で利用促進につながることはあまり実施していない。(教育課)	・ バスを利用した校外学習や乗り方教室などの実施。
・ 計画の名称は当事者意識を持てるようなものとしたほうが良い。(健康福祉課)	・ 公共交通を自分たちで考える意識の醸成。

## 2-7 地区懇談会からの課題

懇談会結果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>移動の課題として「バス停がない・遠い」「本数が少ない」「時間が合わない」「行きたいところに行けない」「休日に運行していない」「バスが大きくて細い道を通れない」「免許返納後の移動手段がない」等。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニーズに合った運行改善（ダイヤ・ルート等）。</li> <li>バス車両の小型化の可能性検討。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通を維持するために必要なことは「休日運行」「時間・路線の見直し」「デマンド運行」「料金施策見直し」「スクールバスの活用」「免許返納への特典」「利用促進PR」「運転手の確保」「観光利用」「外出する楽しみ」等。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスの運行について地域・交通事業者等との調整。</li> <li>デマンド運行の導入について交通事業者・地域等と調整。</li> <li>スクールバスの活用について教育課との調整。</li> <li>地域運行など実現化検討。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域でできることは「声掛けなどで利用者を増やす」「試乗会」「PR活動」「地元商店等の協賛」「イベントでの利用」「地域運行や地域での運転手確保」「地域であり方を検討」等。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域での検討組織などの立上げ。（モデル地区の選定）</li> <li>PRやイベントなど地域との協力体制の確立。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>デマンド運行や地域運行などについて東部（山間部）の方が積極的な意見が出ている。</li> <li>西部はルート変更や利用促進に関する意見が多く出ている。</li> <li>西部では隣接市町のバスとの連携や駅への接続についての意見が出ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東部（山間部）における地域の実情にあった運行形態への転換。</li> <li>運行形態の転換において地域との協力体制の確立。</li> <li>西部におけるニーズに合ったルート・バス停等の検討。</li> <li>隣接市町の交通機関との連携。</li> </ul>

## 3 基本理念・基本方針と目標

公共交通を取り巻く課題を踏まえ、本町における地域公共交通網形成の基本理念と基本方針を次の通り定めます。

### 基本理念

みんなで支えて 未来へつなげる やおつの地域公共交通

### 基本方針1

誰もが「使える」地域公共交通網をつくります

- ・ 利用者のニーズに対応したダイヤ・ルートの変更
- ・ 公共交通に関する情報の提供
- ・ 利用しやすい車両・施設の整備
- ・ まちづくりを踏まえた公共交通網の形成
- ・ 観光来訪者が利用しやすい公共交通網の形成

### 基本方針2

将来に渡って「維持できる」地域公共交通網をつくります

- ・ 利用促進
- ・ 運行経費の削減
- ・ 効率的な運行形態への転換
- ・ 適切な料金体系
- ・ 運転手の確保
- ・ 収入の確保

### 基本方針3

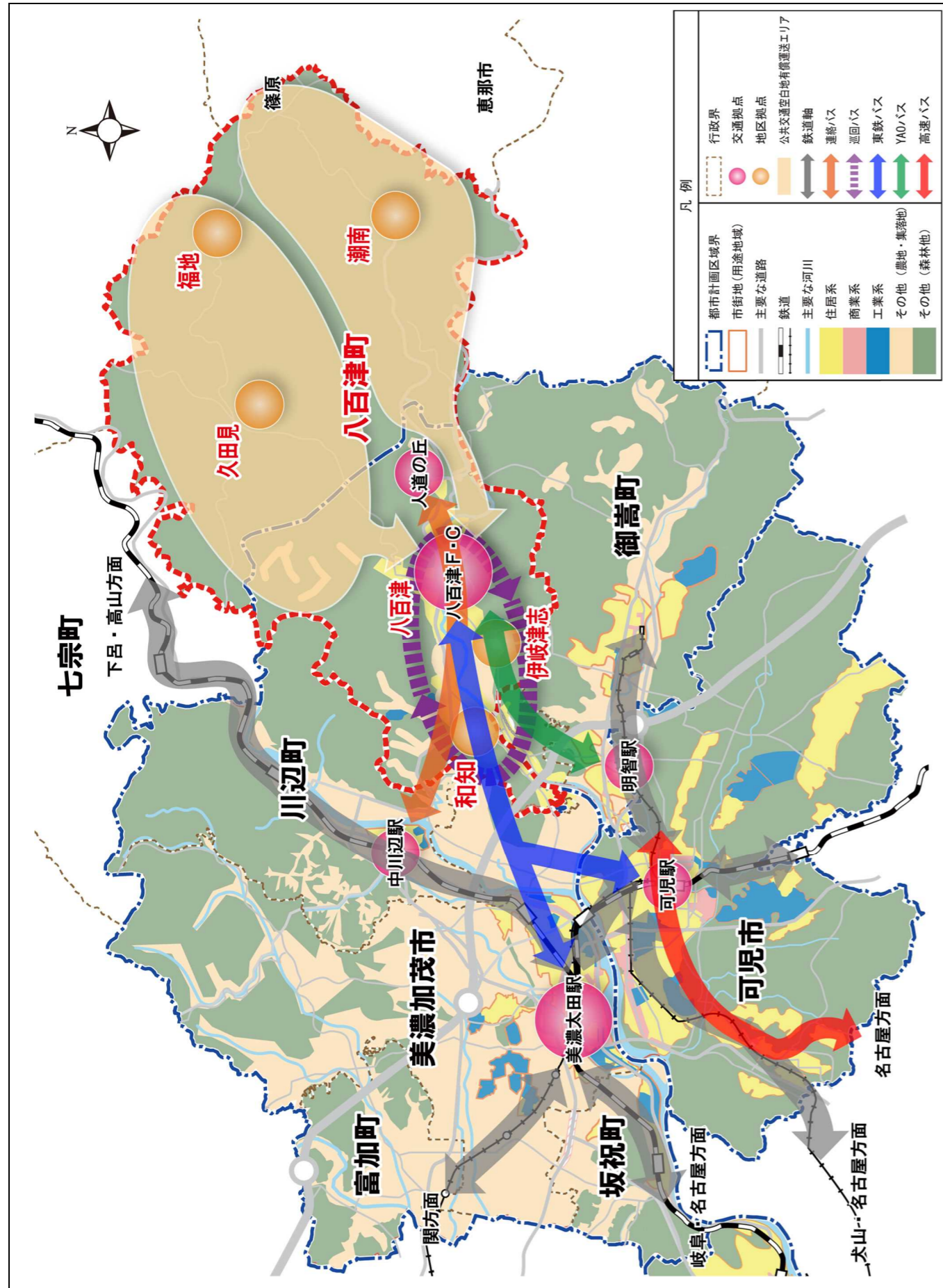
みんなで「支える」地域公共交通網の仕組みをつくります

- ・ 地区で交通を考える・支える体制づくり
- ・ 地域の商業施設等との連携
- ・ 福祉、教育、NPOなどとの連携
- ・ 地域、交通事業者、行政の役割の明確化

## 4 実施施策（案）

基本方針に基づき、計画期間（H31年度～H36年度）内に実施する施策について、今後関係機関と調整を図ります。

基本方針	施策の方向性	実施施策
誰もが「使える」地域公共交通網をつくります	利用者のニーズに対応した運行	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティバスの再編</li> <li>路線バスのダイヤ・便数の見直し</li> <li>鉄道駅との連携の維持・充実</li> </ul>
	公共交通に関する情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通マップや乗り方案内チラシ等の作成</li> <li>バス試乗会の実施</li> <li>インターネットの乗換案内等での検索対応</li> </ul>
	利用しやすい車両・施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>低床バス等のバリアフリー化の推進</li> <li>バス待ち環境の改善（ベンチ等）</li> </ul>
	まちづくりを踏まえた公共交通網の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存バス以外の交通手段も意識したネットワークづくり</li> </ul>
	観光来訪者が利用しやすい公共交通網の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光シャトルタクシーの充実</li> <li>観光周遊ルートの設定検討</li> <li>観光来訪者への公共交通PR</li> </ul>
将来に渡って「維持できる」地域公共交通をつくります	利用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校入学生への公共交通利用案内</li> <li>お試し乗車券の配布</li> <li>免許返納者への利用促進策の検討</li> <li>隣接市町が運行するバスとの連携</li> <li>ノーカーデーの実施</li> </ul>
	運行経費の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスの小型化</li> </ul>
	効率的な運行形態への転換	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティバスの再編</li> </ul>
	適切な料金体系	<ul style="list-style-type: none"> <li>料金体系の見直し</li> <li>乗り継ぎ割引の実施</li> </ul>
	運転手の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>人材確保・育成への支援</li> </ul>
みんなで「支える」地域公共交通の仕組みをつくります	収入の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>広告収入の確保</li> <li>イベントなどでの特別運行の実施</li> </ul>
	地区で交通を考える・支える体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区別の交通協議会の設立</li> <li>地域イベント・行事での公共交通のPR</li> <li>地域からの意見・要望の把握</li> </ul>
	地区の商業施設等との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通利用者への特典</li> <li>バス運行への協賛金（広告）</li> </ul>
	福祉、教育、NPOなどとの連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉と交通が連携した外出支援</li> <li>福祉有償運送との連携</li> <li>福祉イベントとの連携</li> <li>スクールバス活用の検討</li> <li>学校でのバスの乗り方教室の開催や校外学習での利用</li> </ul>
地域、交通事業者、行政の連携、役割の明確化	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通会議の継続的な開催</li> <li>公共交通網形成計画のPDCA実施</li> <li>町民の公共交通利用への啓発</li> </ul>	



図：将来の公共交通網形成のイメージ